

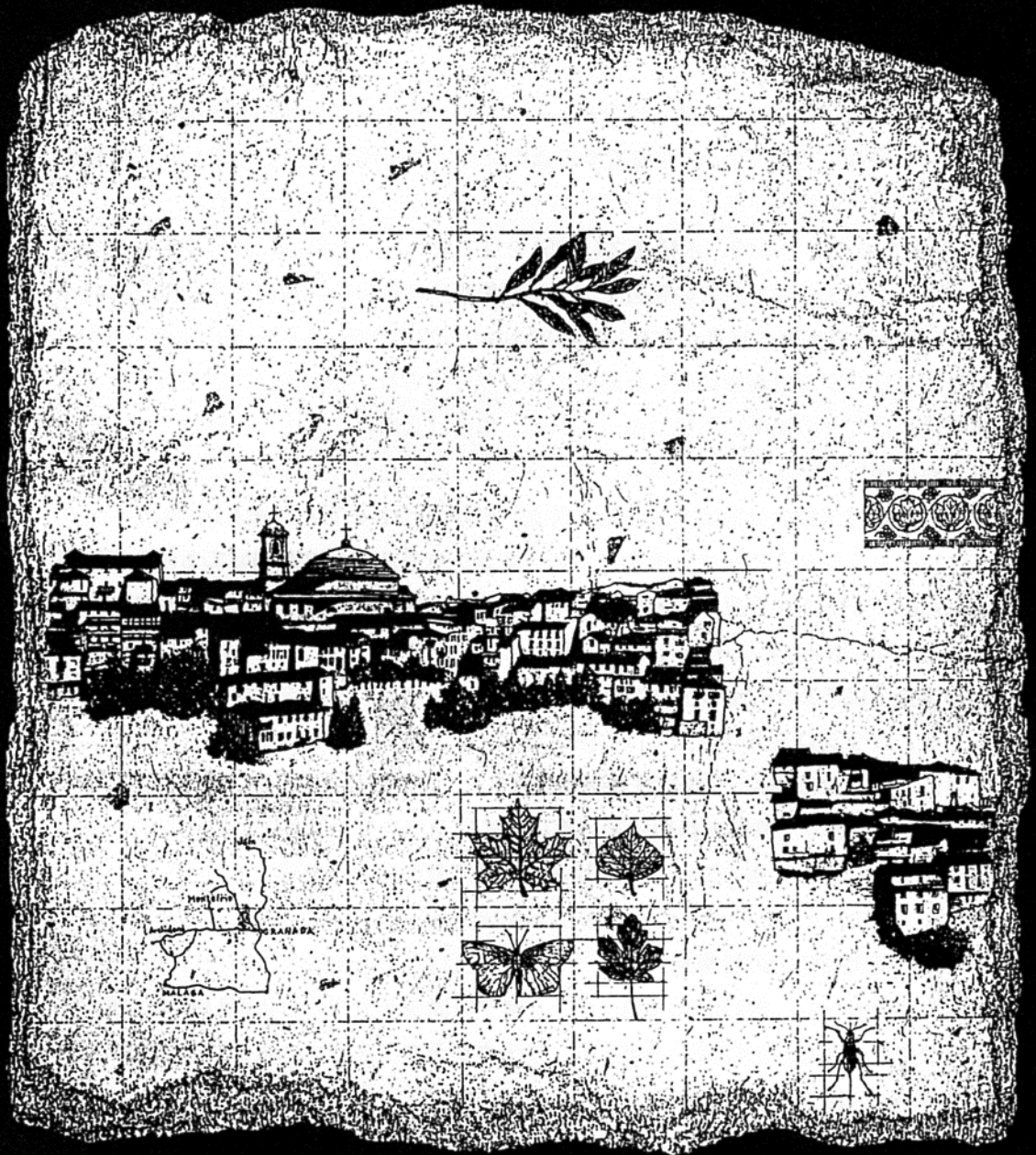
# 翔

百万石蝶談会

No. 130

7 e b л и а л ы

1998



Andalucia

## 奥能登猿山へゼフィルスを求めて

松 井 正 人

石川県にハヤシミドリシジミやウラジロミドリシジミが居ないのは、食樹となるカシワが少ないからとされている。しかし、能登の海岸には少なからずカシワ林が存在し、富来町猿山付近にはまとまった林もある。標高約200m、カシワ林は日本海に向かってそそり立つ山肌に有り、強風によって樹高は低く押さえつけられている。「こんな所にゼフィルスが居るのか？」と言った感じのところである。

ウラジロミドリシジミは、近隣には分布していない。ハヤシミドリシジミは、明るい高原のカシワの疎林に生息するが、北海道や青森県北部では海岸地帯にも生息し、佐渡島にも分布している。可能性があるとすれば、ハヤシミドリシジミと考えていた。

こんな事を考えている時、永幡嘉之(1995)を見て驚いた。それは、西日本におけるカシワ食のウラジロミドリシジミの報告で、その採集場所に驚いた。猿山のカシワ林と良く似ている。カシワ自生地の写真が有り、環境といいカシワの状態といい、猿山とそっくり。ウラジロミドリシジミは海岸に面した斜面のカシワで得られ、卵も海に極めて近いところから尾根にかけてどの場所でも見つかっている。場所は兵庫県とちょっと離れているが、同じ日本海に面している。猿山に舞うウラジロミドリシジミが目に見えた。

1997年6月14日、猿山付近はクリの花が咲き、絶好のゼフィルスシーズン。しかし、クリの花にはルリシジミとヒメウラナミジャノメばかりで、カシワを叩いても何も飛び出さなかった。早すぎたかと思い、同月29日に再び猿山を訪れると、クリは終わりミズキが花盛りだったが、今回もゼフィルスの姿は無かった。

2回の調査ではあるが、ゼフィルスシーズンに猿山を訪れカシワを叩いたが、ハヤシミドリシジミ、ウラジロミドリシジミはおろかゼフィルスは確認できなかった。しかし、永幡嘉之(1995)の印象は強く、今度は採卵調査を考えている。強風吹きすさぶ断崖での採卵、200m下には日本海の荒波がざわめいている。妙にワクワクしませんか。我と思われる方が居ましたら、一緒に行きましょう。楽しみは大勢で分かち合うものです。

### 1997年門前町猿山での目撃リスト

ダイミョウセセリ	6月14日	2頭	イチモンジチョウ	6月14日	1頭
エゾスジグロシロヨウ	6月29日	1♂	アカタテハ	6月29日	2頭
カラスアゲハ	6月29日	1頭	コムスジ	6月29日	1♀
モンキアゲハ	6月14日	1頭	ゴマダラチョウ	6月14日	8頭
ルリシジミ	6月14日	3頭	ヒメウラナミジャノ	6月14日	5頭
ミドリヨウモン	6月29日	1♂	コジャノメ	6月14日	2頭
メスグロヒョウモン	6月29日	1♀			

## 《 参考文献 》

永幡嘉之(1995)西日本でカシワを食樹としているウラジロミドリシジミの記録. IRATSUME(19):4-10.  
 《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 富山県の山地性ウラナミアカシジミ

久 慈 一 英

1992年頃から山地のウラナミアカシジミを採集している。私は、何とも思わずにいたが、ウラナミアカシジミは山地では少ないようなので報告することにした。

1992年7月 4日 富山県西礪波郡福光町医王山 1♂2♀採集 久慈一英

午後2時頃、医王山夕霧峠から少し富山県側に入ったところの林道沿いの2-3本の木(たぶんコナラ)から数頭出てきた。その後は、採れていない。標高は、約800m。

1992年7月 5日 富山県東礪波郡城端町人喰谷 1♂2♀採集 久慈一英

1996年6月30日 富山県東礪波郡城端町人喰谷 5♂2♀採集 久慈一英

国道304号を五箇山トンネルに入らず、細尾峠に至る旧道沿いの場所で、標高は500m位だろうか。いずれも午後2時過ぎから道路沿いの栗の花やコナラの木に止まっていた。夕刻が近づくと樹上を何頭か飛び回っているのを観察できる。ここは、溪谷の南側急斜面であり、他にジョウザン、エゾ、ウラクロ、ウラキン、ダイセン、アカなど沢山いる。1991年に私の叔父が見つけたポイントでこの年にも採れている。おそらく、かなり昔から安定して発生しているものと考えられる。

富山県に山地性のウラナミアカシジミがいて、医王山の金沢側で本種の報告が出るようになったのが1992年頃からのようなので、医王山の富山県側から分布を広げて来た可能性がある。特に、この時期には富山県側斜面にイオックスアローザスキー場ができ、広大な伐採が行われ、新しい道路も作られた。これが、本種の金沢側への拡散の契機になった気がする。なぜ、最近になって金沢周辺で増えてきたのかわからないが、山地性の食樹への適応が起こった一群がもともと富山県にいて、医王山から新たに進入したからではないだろうか。コナラを主な食樹として適応しているので、山地での分布を拡大している可能性がある。富山県の本種の分布と食樹を、もう一度確認する必要がある。

カシワを食べるアカシジミが別種になったのだから、もしかしたらコナラを食べる山地性ウラナミアカシジミも低地産とは別種？

《くじ いちえい 〒920-1161 金沢市鈴見台3丁目1-3》

## クロコムラサキの採幼について

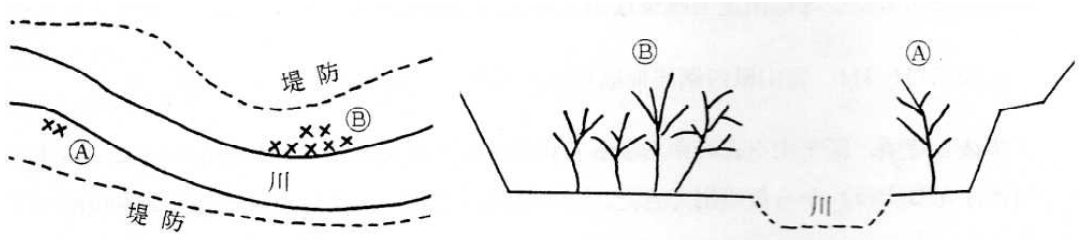
勝海雅夫

4月末から5月中頃にかけて、能登でコムラサキの採幼をしているので、採幼方法を報告する。越冬幼虫の採幼が今ひとつと言う貴兄は、一度お試しあれ。

集中木をいかに探すかが一番のポイントで、冬に条件の良い木を探しておく方法もある。

### 集中木のポイント

ヤナギの群がりは、少ないものを選ぶ。下図では、B群よりもA群に集中しているケースが多い。



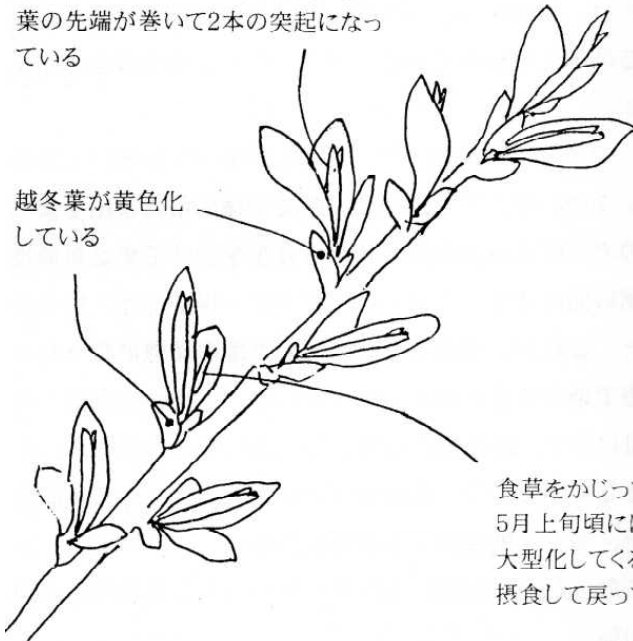
### 採幼のポイント

カワヤナギ系の細長い葉は、葉が密集しているので採幼は難しく、お奨めは楕円形の葉の木（バッコヤナギ）を選ぶ。

幼虫の居る高さは目線から3mまでの枝に集中し、あまり高いと駄目である。

新葉がコムラサキの若齢幼虫と似て葉の先端が巻いて2本の突起になっている

越冬葉が黄色化している



(原寸)

越冬個体が脱皮すると上の図になる  
(脱皮後1週間経過)

食草をかじっているなので、越冬後の幼虫体色は5月上旬頃にはグリーン化している  
大型化してくると、台座葉より離れて別の枝で摂食して戻ってくるケースが多い

《かつみ まさお 〒525-0037 草津市西大路町4-32-1005号》

## 石川県のシジミチョウ 6

松井正人

翔 NO.123 (DEC. 1997) から、ゼフィルスを除く石川県のシジミチョウについて紹介してきたが、今回で総てを紹介する事になる。この連載の間に、根上町で採集されていたムラサキツバメが発表され (9917) たので、ここに追加する。これにゼフィルス17種 (9711) を含めると、石川県のシジミチョウは36種になる。

なお、同産地のデータは最も新しいものを採用し、メッシュ分布図は国土地理院発行の5万分1の地形図を16等分して用いた。

## 16 ヒメシジミ

白山周辺の尾添川流域と柳谷流域から記録されている。少ない種で、ここに紹介したデータは全ヒメシジミデータの約半分になる。

				参考文献
1988年7月 9日	吉野谷村蛇谷	1 ♂ 2 ♀	木村富至	9062
1990年6月23日	吉野谷村中宮温泉	3 ♂ 2 ♀	松井正人	
1984年7月15日	尾口村岩間～新岩間	1 ♀	木村富至	9642
1984年7月21日	尾口村岩間噴泉塔	4 ♂ 2 ♀	指田春喜	9649
1984年7月15日	尾口村三又発電所	1 ♂ 1 ♀ 採集数目撃	木村富至	9642
1993年7月 9日	白峰村市ノ瀬	2 頭	国分五男	9917
1978年7月22日	白峰村白山中飯場	1 ♀ 目撃	竹谷宏二	9356

## 17 アサマシジミ

産地のほとんどは、白山尾添川水系にあり、ナンテンハギ、イワオウギが食草となっている。県外ではあるが白山スーパー林道三方岩岳駐車場付近や、そこから北方へのびる稜線上の大笠山、奈良岳周辺でも記録されている (9923) ので、見越山に至る稜線付近には転々と産地があると思われる。

				参考文献
1990年8月 1日	金沢市見越山	2 ♂ 2 ♀	松井正人	9686
1988年6月26日	吉野谷村スーパー林道	1 ♂	指田春喜	9811
1991年6月 5日	吉野谷村蛇谷	多幼目撃	松井正人	
1981年7月26日	吉野谷村蛇谷扇岩	1 幼目撃	松井正人	9478
1981年7月12日	吉野谷村蛇谷大橋	2 ♂ 1 ♀ 目撃	松井正人	9478
1991年7月 6日	吉野谷村中宮温泉	1 ♀ 目撃	竹谷宏二	
1988年6月26日	吉野谷村中宮料金所付近	1 ♂	指田春喜	
1972年5月 8日	吉野谷村途中谷入口	数幼	三陰外茂治	9335
1972年7月22日	吉野谷村湯谷頭	1 ♂	松井正人	
1983年6月12日	尾口村丸石谷	1 4 幼	野中 勝・他	9564
1953年7月10日	尾口村岩間温泉	1 ♂ 1 ♀	山本順子・他	9041
1982年7月 3日	尾口村中の川	多♂ 4 ♀ 目撃	松井正人	9548

## 18 ミヤマシジミ

記録に残されているのはこの2例のみで、大野 豊氏の記録は、手取川の左岸か右岸かわからない。文献(9338)によると、1961年当時は辰口大橋付近でかなり見受けられ、知人は14頭を採集しているが、1974年頃の調査では幼虫、成虫共に発見できなかつたとなっている。辰口町とは手取川を挟んで対岸になる川北町では、1993年～1994年にかけて綿密な調査が行われているが(9302)が、本種は確認されていない。

			参考文献	
1961年 9月23日	辰口町手取川堤防	1♂ 1♀	富沢 章	9024, 9338
1973年10月27日	手取川	2♂	大野 豊	9338

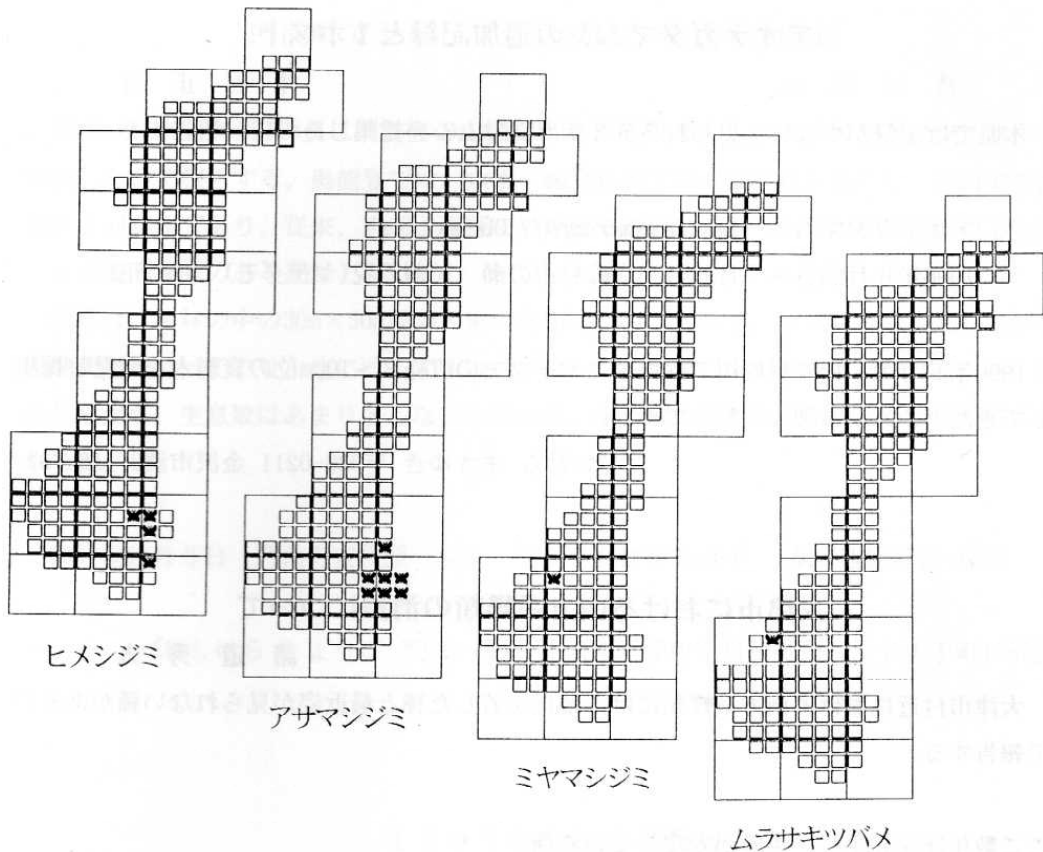
## 19 ムラサキツバメ

1997年に富沢 章氏により報告された迷蝶で、県内における唯一の記録。本種が採集された1992年は特異な年で、これまた県内唯一の記録となるシルビアシジミも採集されているが、迷蝶として良く採集されているウスイロコノマは記録されていない。

			参考文献	
1992年8月19日	根上町山口	1頭	国分五男	9917

## 《 参考文献 》

- 9024) 中山佐一郎(1981) 小松市とその周辺のチョウについて, 小松市博物館研究紀要 18:1-26.  
 9041) 山本順子(1956) 石川県産の蝶113種になる, 新昆虫 9(12):41-42.  
 9062) 木村富至(1988) 白山の石川県側にてヒメシジミを採集, だんだら(2):18.  
 9302) 江口元章(1995) 川北町昆虫目録, 川北町史 第1巻(自然・生活編):843-867.  
 9335) 武藤 明(1974) 昆虫数種の習性について, とっくりばち(26・27):3-5.  
 9338) 富沢 章(1975) 石川県のミヤマシジミについて, とっくりばち(30・31):5.  
 9356) 竹谷宏二(1979) ヒメシジミ・エルタテハの目撃記録, とっくりばち(43):6.  
 9478) 松井正人(1982) 1981年アサマシジミ調査記録, 翔(26):1-4.  
 9548) 松井正人(1984) 中の川1982, 翔(46):2-3.  
 9564) 野中 勝・他(1984) 白山丸石谷にてアサマシジミを採集, 翔(48):5.  
 9642) 松井正人(1988) 石川県の珍蝶, 翔(70):4-6.  
 9649) 指田春喜(1988) 噴泉塔(白山麓・岩間温泉)でヒメシジミ6頭を目撃確認, 翔(74):1.  
 9686) 松井正人(1990) 金沢市でゴマシジミとアサマシジミを発見, 翔(86):1.  
 9711) 松井正人(1991) 石川県に於けるゼフィルスの分布5, 翔(92):5-8.  
 9811) 指田春喜(1990) 1988年度蝶類採集(観察)報告, 多摩虫(25):18-19.  
 9917) 富沢 章(1997) 国分五男氏の採集記録から, 翔(124):1.  
 9923) 中野善敏(1993) ゴマシジミ採集紀行・1993(その3), NAPI NEWS(247):2319-2321.



《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 犀川源流域でキバネセセリの巣を発見

松井 正人

犀川源流域の中心部に位置する高三郎山への登山中、キバネセセリの巣を発見した。谷川沿いの道からシャクナゲ尾根を登り出した急坂に大きなハリギリがあり、キバネセセリの若齢幼虫のものと思われる巣がたくさん付いていた。同行の八神徳彦氏に巣の付いた葉をいくつも取ってもらったが、いずれも空巣でキバネセセリは確認できなかった。

1997年6月24日 金沢市高三郎山 キバネセセリの空巣多数

キバネセセリの産地は、吉野谷村、尾口村、白峰村に多く、金沢市には、偶産と思われる記録しかない。この偶産地を含め金沢市の各地にハリギリは見られるが、キバネセセリの幼虫は発見されていない。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## アオナガタママシの追加記録と1ホスト

井村正行

本県では記録が少ないと思われるアオナガタママシを採集したので、報告する。

アオナガタママシ *Agrilus marcopoli* Obenberger

1996年6月25日～7月25日 白峰村市の瀬 10頭羽脱(ヤチダモ) 井村正行

1996年5月頃、白峰村周辺で採集中にヤチダモの直径8～10cm位の衰弱木を発見し採集してきたところ、本種が羽脱してきた。

《いむら まさゆき 〒920-0211 金沢市湊2-116-70》

## 大津市における南方系蝶類の消長について

諸道秀人

大津市付近における南方系蝶類には、最近定着した種と最近姿が見られない種があるので報告する。

### ここ数年連続発生し、生態が安定している種

ツマグロヒョウモン、ムラサキツバメ

ツマグロヒョウモンは、街中のマスミレ、サンシキスミレを中心に、郊外のタチツボスミレ等で発生している。ムラサキツバメは、近江神宮境内のマテバジイや滋賀県下水道公社湖南浄化センター内のマテバジイで発生し越冬している。

### 以前発生していたが、ここ数年姿が見られない種

ツマグロキチョウ、ウラナミジャノメ、クロコノマチョウ

以前は、食草付近で幼虫、成虫ともに見られたが、1996年からは確認していない。食草を含め環境は以前と変わっていないのに、不思議である。越冬に失敗したのが原因かもしれない。

### ここ数年連続して成虫が見られるが、幼虫や食草が不明な種

ナガサキアゲハ、サツマジジミ、イシガケチョウ

成虫の姿は毎年見られるようになったが、幼虫は確認していない。何処かで発生している可能性は十分ある。

《もろみち ひでと 〒520-0865 大津市南郷4-23-12》



## 門前町でシャープゲンゴロウモドキを確認

西原昇吾

筆者は、1997年11月3日に門前町の山間部にある廃田で、シャープゲンゴロウモドキを確認したので報告する。奥能登では、穴水～輪島以東での記録は数々あるが、以西での記録は今回が初であり、従来、東部と西部での地質の違いなどから生息が疑問視されていたことを覆す意味のある記録となった。

現地は、杉林の中の30m×30m程の円形の廃田で、カンガレイ、ガマなどの生える良好な湿地状態となっており、他には、オオコオイムシ、イモリ、ドジョウなどが見られた。しかしながら、生息数はあまり多くないと思われ、来年度の幼虫の発生状況を確認する必要がある。

1997年11月3日 門前町安代原 シャープゲンゴロウモドキ 1♀ 西原昇吾 採集

《にしはら しょうご 〒920-0912 金沢市大手町7-11レイクランド大手町108号》

## 1997年度収支報告

会計年度は1月1日から12月31日

収 入		支 出	
項 目	金額 (円)	項 目	金額 (円)
1997年度会費	78,000	会誌作成費	83,560
当該年度以外会費	36,000	例会費	16,000
会誌売上金	2,400	博物館を作る会会費	3,000
郵送負担金	16,000	郵送費	31,980
寄付金	0	消耗品費	4,613
前年度繰越金	39,466	次年度繰越金	32,713
計	171,866	計	171,866

が上がる。カミさんには、窓拭きのせいだとかまかしている。

年々恒例は何処へやら

井村氏、今年も正月休みは家でゴロゴロごろ寝。二年続くと欲求不満も積もり、「ムシ採るぞ、ムシ採りて」とわめいていた。

輪島からの頼もしい報告

アカハネムシに輪島からの報告が相次いだ。天野氏と日吉氏によるもので、能登の記録は大変ありがたく、今後も発表が続くことを期待したい。それにしても、両氏とも立派な後継者がいるようで、こちらも頼もしい。

パールを脱いだウラキンシジミ

輪島で採れたとか、宝達山で確認されたとか言われていた能登のウラキンシジミの体が明らかに変わった。アカハネムシ二五号によると、一九九七年に日吉氏が、輪島市石休場で一雌を採集している。

遅れに遅れた昆虫目録

最初の予定は、九月に印刷へ回し、初稿、二稿と充分な時間をかける筈だった。しかし、年が変わったのに、印刷に回った原稿は約半分。

眠ったままのインターネット

指田氏、ISDNも引き込み、WWWにEメールにどんなのめり込む筈だった。ところが、Eメールは全く読んでいないようだし、WWWも覗いていない。訳は分からないが、励ましのEメールを出してあげよう。

sashida@po2.nsknet.or.jp

失速気味の松井氏

松井氏と言えば、記録集め。県内の蝶の記録を集めているが、最近五年間の記録が少ないうらしく、なかでもゼフィルスの記録はほとんどないらしい。翔から蝶の記事がめつきり少なくなつたのが原因かもしれないので、励ましの記事を翔に載せよう。

写真展「花の咲く頃に」

竹谷氏、本多町は北陸放送の向かい、北陸電力ビルで個展を開く。県内各地の野草や蝶たちが優しく写し込まれ、雪が舞う戸外とは対照的に、ギャラリイはほのぼのとした暖かさに満ちていた。

インターネットはヤミデスから

年明けからインターネットが使えるようになった松井氏、あちこちのサイトを覗いている。まずヤミデスから入り、そこからどこかへ行くらしいが、サーバーが軽く何処へでも瞬時に飛ぶらしい。

昆虫館は七月オープン

鶴来町に建設していた建物ができあがり、間借りしていた準備室も引越し完了。常時四百頭が舞う放蝶温室は、四月から試験運用に入る。

高田君、またまたジャワへ

生態学研究室では、ジャワで定点観測を続けているらしい。

く、彼は毎年この時期に行くらしい。最近、この辺りで飛行機がよく落ちるので、心配の種はつきない。

例会の記録

一二月四日(木)城南管工二階で八時から開催。

江崎氏の結婚報告から始まり、江崎、井村のにぎやかコンビは絶好調。あれよあれよと思う間に時間はどんどん過ぎていった。旅行編では「ナタは持つていくか現地調達するか」「材は持つて帰れるか」「欲求不満で帰るより、罰金払って帰る方が良い」、料理編では「おいしいキムチの作り方」等。

結婚以外の話題では、石川県は針葉樹系の虫が弱い、針葉樹のオオチャイロ、有峰のオオトウ、鉢伏のフトキクスイ、鉢伏のアサマダ、輪島のウラキン、千振の原生林、等々。

参加は、久慈、江崎、井村、松井、中西、竹谷、山岸、西原の八人。

【表紙デザイン：小幡英典】

# 会員の動き・しゃべの動き

## 山岸氏に瑠璃子姫誕生

一姫二太郎と言うけれど、氏の場合は一太郎二姫。太郎には自分の名前を一字付け、姫には愛妻の名前かと思つていたら蝶から付けた。最近、八重山に通っているのでマルバネかホリシャ、それとも憧れのキマダラ、渋いところでスギタニかもしれない。

## 日本産蝶類近縁種大図鑑

またまた藤岡大図鑑、今回はアゲハ・セセリ編で定価は七万六千円とゴツツイ。しかし、指田氏に頼むと込み込み六万二千円で手に入る。今後二年間隔で続編が出る予定。

## 江崎氏は一足早い春爛漫

わび住まいを引き払い、金沢に越して来たかと思えば、半年足らずで結婚。急ぎ過ぎ

たのか、旅行は年明けまでお預けとなり、それまでにスケジュールを必死にこなしている。今の悩みは、旅行にナタを持つていくべきかどうか。おっと、彼はカミキリ屋です。

## 澤田氏、年末にプーケット

恒例となった年末年始の海外旅行、一家そろって六泊七日のツアーに参加。現地では一日二五〇〇円でジープをレンタルし、ジャングルに乗り込む。国立公園では、事前にチーフレンジャーに話を通し、悠々と網を振った。

## 宝達山ピークブナ林の怪人

屋なお暗き北陸の冬空、傘は絶対手放せない。なんて何処の話かしら、と思わせるうらかな天候が続いた年末。カミさんの眼を盗んでこっそり

出かけた松井氏、宝達山ピークでアイノを探していると、ブナ林で怪しく動き回る人影を発見。

## 宝達山ピークの木登り怪人

年末の好天に誘われた井村氏、かねてより気になつていた能登のコルリ調査に出かけた。宝達山のブナ林で産卵マークを探していると、林道縁のミズナラに上っている怪しい人影を発見。

## 悲願の八重山ゲンゴツア

いつの時代にあつても八重山は虫屋にとつて憧れの地。ある時は蝶を追い、またある時はクワガタやカミキリを狙つて、何度かこの地を訪れる。そして今、ゲンゴに狂つた横山氏、水中ネットを持つて乗り込んだ。年末年始はゲンゴ三昧だとか。

## 寄る年波には勝てない

久しぶりに木に上つた松井氏、五く六本しか上つてないのに、翌日から体が痛くて腕

# 翔

NO. 130

1998年2月1日発行

百万石蝶談会

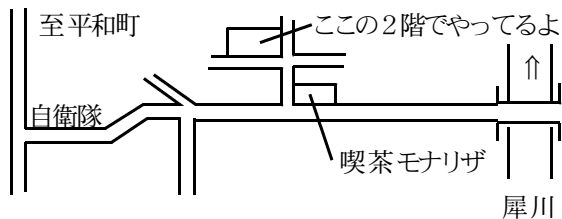
金沢市大場町東871-15 松井方

☎920-3121 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から  
TEL 参加もOKです (076-244-3318)



## 目 次 (130号)

松井正人：奥能登猿山へゼフィルスを求めて	1
久慈一英：富山県の山地性ウラナミアカシジミ	2
勝海雅夫：クロコムラサキの採幼について	3
松井正人：石川県のシジミチョウ 6	4
松井正人：犀川源流域でキバネセセリの巢を発見	6
井村正行：アオナガタマムシの追加記録と1ホスト	7
諸道秀人：大津市における南方系蝶類の消長について	7
西原昇吾：門前町でシャープゲンゴロウモドキを確認	8
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10